

漁村と山村住民における血漿中の脂肪酸組成、血小板凝集能、およびビタミンE量について
梶山女大生科 ○並木和子、山中みどり

〔目的〕 近年、不飽和脂肪酸の生理機能の解明が進み、食生活における摂取脂質に関しても、飽和と不飽和、不飽和におけるn-3系とn-6系、n-3系についてもDHAとEPAの機能の特徴などの解明が進むにつれ、各種疾患との関連における脂質摂取バランスの重要性が唱えられている。一方、不飽和脂肪酸の過剰な摂取はビタミンEの損失を招くとも言われている。本報告では、食習慣の異なると考えられる離島と山村住民における血漿中の脂肪酸組成、血小板凝集能、ビタミンE等の分析を行い、これら血漿成分と食生活との関連について検討した。

〔方法〕 漁村：三重県鳥羽市神島 284名、山村：三重県飯高町 197名、脂肪酸組成は、脂質を抽出し、メチルエステル化後GCにより分析。血小板凝集能はヘマトレーサーによる比濁法。ビタミンEはHPLCにより分析。食生活調査は3日間の食事内容記録と面接調査により行った。

〔結果〕 血漿中の脂肪酸組成では、両集団のP/Sは漁村住民は2.2と高く、山村住民は1.3であった。n-6系/n-3系は漁村2.6、山村2.7、EPA/AAでは、漁村0.8、山村0.7であった。また、S:M:Pは、漁村1:0.7:2.1、山村1:1:1.3であり、特に漁村住民のn-3系不飽和脂肪酸摂取の多さが示唆され、このことは食生活調査でも認められた。血小板凝集能は、漁村、山村住民のいずれも凝集能は低下傾向を示し、また、血漿中のビタミンE量は漁村1.09mg/dl、山村1.06mg/dlと正常範囲を示し、不飽和脂肪酸多量摂取による影響は無いものと考えられた。